

図版①「晉祠銘碑額」



書体鑑賞・「飛白体」①

『晉祠銘・碑額』
唐時代・貞觀20年(646)

図版②「晉祠銘碑額」



図版④「晉祠銘」

図版③「空海飛白」



唐太宗皇帝・李世民は、唐王朝の礎を築いた名君とされている。書の方面では、書聖・王羲之を崇拜し多くの王書を集め、蘭亭序の真蹟をも入手し、書法文化において偉大な業績を残している。自らも王書を学び、書を善くした。最晩年の筆とされる温泉銘や晉祠銘の書が伝えられている。晉祠銘の原碑は、現在も山西省の晉祠の貞觀碑亭に伝えられている。ゆつたりとした伸びやかな筆勢の書であり、行書体で書かれた最初の碑文とされる

で書かれている。飛白体とは、後漢の蔡邕が創出したとも伝えられている。書体名の飛白の語が示すように、黒い点画の中に白い線が織物の糸のように見られる状態をいう。刷毛状の毛先で書いた扁平な線状を示している。日本には空海筆とされる真言七祖像の画贊の飛白体は、有名である(図版⑤)。まさに塗装用の刷毛状の筆で書かれたことを如実に示してある。晉祠銘の碑額は、「貞觀廿(二十)年正月廿(二十)六日」と書かれている(図版②)。縦画や横画、払いの部分が線が幾つ

かに割れ、飛白の状態を示している。やや右肩上がりの書風で、行書的な点画の繋がり、また起筆に見られる逆筆、横画の終筆の波磔などは隸書の特徴を示す。主図版は、貞觀の「觀」字をほぼ原寸で示した(図版①)。終筆の最後は、たなびく煙のように右上方に振り上げている。

伊藤滋 メールアドレス
mokkei@galaxy.ocn.ne.jp

書道芸術院

平成の群像 (2015)



第66回書道芸術院展

「蛇」

一本の鋼となりて蛇跳べり（石見邦慧さんの句）



今 村 菁 華

ある日の夜、偶然目にしたテレビの画面は蛇が大木の枝から枝へと、正に宙を飛んでいました。その年の暮、書道芸術院展の出品作の言葉を探して句集を捲っていた時目に入ったのが写真の句でした。あの時の映像がさまざまと浮かび、翌年は已年でも有り、「これだ」と思い一気に書きました。

丁度その頃、俳句・連句をやっている友人に誘われ勉強会に参加するようになり7年になりますが、様々な情景や思いを季語を入れ17文字に込める句作の難しさを実感しているこの頃です。詩や句から受けたイメージを大切にし、紙を選び、筆を選び、墨色を考え書き上げた作品を作者の方に喜んでもらえた時は本当にホッします。私

しなやかに、ハガネの強さを内に秘めて。近代詩文書作家協会（現・日本詩文書作家協会）が主催で、様々なジャンルの方々とコラボし、作者やテーマを決められて作品を制作する事となり、今まで何と安易に素材を選んでいたのかと反省させられました。一篇の詩・歌・句⋮に込められた作者の思い。一つの言葉の持つ意味の深さ、表現の多用性、書き手もしっかりと受け止め心を込めて書作しなければと自分に言い聞かせました。

の生涯のテーマとして精進していきたいと思っています。

そしてもう一つのテーマが「生活中の上を飾り一見隆盛に見えますが、それは特

別な空間、展覧会に出品している人達だけのもの。いくら受賞した立派な作品でも、何十畳もの部屋の有る大邸宅にでも住まない限り自宅で作品を飾り楽しむ事は出来ません。ごく普通の家庭の中に、さりげなく

書を飾ることが出来たら△特別なものとしてでなく△当たり前に目にする所に。ごく身近に△との思いから、社中展では必ず家庭で楽しめる小品を毎年テーマを決めて書かせてています。（色紙・短冊・小屏風・絵馬・うちわ・羽子板等々）自分のエト、翌年のエト、好きな文字などを特に子供達には、文字の生まれた起源を説明しながら、時には父兄も参加してもらっています。昨

年の夏、日本詩文書作家協会の総会での講演で島谷先生が「一見隆盛に見える書も展覧会が盛んで有るだけで一般の人達は身近に感じてはいない。もっと家庭の中には書があるのが自然、と感じられる様になつていってほしい」と言われたのを聞き、私の思っている事は間違っていました。先の長い道ですが、自分の選んだ道を少しでも楽しみながら歩んでゆけたらと思っていました。この道に導き育てて下さった種谷扇舟先生・三宅素峰先生に感謝の日々です。

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

(公財) 書道芸術院定例理事会

平成26年度事業報告・決算を中心議題として理事会が5月16日、院事務所にて開催された。6月2日には評議員会を開催し諸案件が確定する。

事業報告、決算は原案通り可決され内容は次号以降の院報をご覧いただきたい。また69回書道芸術院展に関わる昇格者名も院報に発表する予定。

院事務局の人事異動

・本院事務職員羽田典子さんが6月10日付にて定年によりご退職される。院の四谷時代から事務職員として30年近くご苦労頂き本院の事務運営への功劳は計り知れないものがある。深く感謝申し上げたい。

後任としてこれまで臨時事務員としてお手伝いいただいた田端理恵(明琴)さんを事務職員として就任していただきことになった。祐沼彩香さんと2名が常駐職員として事務所運営に当たる。今後ともよろしくお願ひしたい。

第67回毎日書道展搬入・鑑別も

5月11日から13日まで第67回毎日書道展の公募・会友・U23の搬入が行

われた。66回展より約150点減となつたが微減となり減少のペースがやや落ち着いてきたようと思われる。

5月22日～24日、篆刻・刻字を除いて鑑別が行われ入落が決定した。6月

26日～28日に行われる入賞審査に向けて諸準備が進められる。

鑑別初日5月22日には書道芸術院の各部当番審査員・委員約60名ほどが集結し懇親会を開催、毎日書道会の糸賀専務理事、西村事務局長、毎日新聞社事業部堀内氏をお招きして大いに気勢を上げ盛り上がった。

67回展	毎日展全体	書道芸術院
公 募	21,742	1,463
会 友	6,139	455
U 23	1,678	107
計	29,559	2,025
66回展	29,708	2,002
差	-149	+23

書写書道教育推進協議会の活動状況の主な内容

・小学校低学年での軟筆を用いた実験授業の実施報告があり、「軟筆」という名称に違和感がありなぜ「毛筆」でいけないのかという意見もだされた。

・推進基金 各書道団体や書道関係業者から寄せられており、当面300万円を目標としている。前述の実験授業経費や指導者研修、指導テキスト作成など の支出に充てる予定。

・書道国議員連盟（会長 河村建夫氏）との連携

- ・要望として 小学校1・2年生に書写の時間数の明示、および「軟筆」での学習を取り入れる。国語科の評価欄に「書写」を加える。などが挙げられている。

独立教科への展望はなかなか開けないが全日本書道連盟として将来をみえた姿勢を持つべきとの意見あり。

・中央教育審議会へのネットによる意見募集に会員諸氏の書写教育へのご意見を積極的に寄せてほしいと要望。

6月4日総会時書写書道教育講演会
演題「学習環境としての軟筆」
講師 東京学芸大学 細川太輔講師、沙子教諭

東京学芸大学附属小金井小学校 算理
・書道夏期大学日程（池袋サンシャイン）
7月31日 午前 漢字かな交じり書
(永守蒼穹)、午後 かな(吉川美恵子)
8月1日 午前 篆書・隸書(石坂雅彦)、午後 行書(山中翠谷)

8月2日 午前 草書(吉澤大淳)、午後 楷書(赤平泰処)

日光東照宮400年式年大祭記念 文墨奉納祭のご案内

平成27年、日光東照宮が400年記念を迎えるに当たり標記の催しが行われることになった。「短歌・俳句・川柳・写真・書道」の作品を募集し神前に奉納する。書道の作品募集への出品協力を後援の毎日書道会から要請があり以下の通りの要項でご協力いただきたい。

・対象 ①一般の部 高校生以上
②小中学生

・募集期間 5月1日～9月30日

・作品 一人一点 半切(135×35cm)、半切1/2(68×35cm)、縦長使用のみ
篆刻(縦39×横30cm以内)

・未表装で出品(入賞作は主催者側で表装する)

・作品内容 一般部は自由
小学生「にっこり」「とうしょうぐう」
中学生「日光東照宮」
(学校名(略称可)、学年、氏名を白筆)
・奉納料 一般部 2000円
小中学生 無料

- ・出品票などは院事務局へ請求
- ・院事務局へ9月20日までに送付
- ・展示会 11月28日～12月10日
- ・表彰式 11月28日(東照宮にて)
- ・審査員 石飛博光先生他

現代詩文書 (三)

田 村 鄭 雲

用具等、会場の準備

用具の設定

前回、一回り小さい (3.6尺×5尺)
大作を制作した際の道具を使用。

バケツ、バケットキャリー、墨は墨
汁2桶2本用意、紙は本画宣、単宣と
二層狭宣を用意、下敷きは辻元先生と



精秘堂から借用しました。

日程、会場の設定

4尺×7尺の作品揮毫には8尺×11

尺程度が必要。乾燥までに4
時間から5時間必要となり、
作品を乾燥させるまで畳めな
い。エアコンが無いと乾燥に
かなりの時間がかかる。

6尺の全紙を縦に2
枚糊付けし、横に7列
に張り込むためのスペー
スが必要。

例 バスケットコート

15尺×28尺では3

セット作成可能。

部屋の条件として

①エアコンの設備があ
る体育館で長時間通

して借りられる場所

②用具の搬出、搬入が容易であ
ること、結果 体育館を1週
間間隔で2日、10日後、民宿

の広間を宿泊で借用。
ということになりました。

前衛書 (三)

太 田 蓮 紅

一題が意するメッセージー

人に名前があるように前衛書
にも題がある。「題が要る、要
らない」については先人の先生
方が贊否の論を唱えている。ど
ちらもなるほどと納得させられ
る。作品に付けられた題も千差
万別である。素材に使用した文
字、イメージを広げた題、年号
や月日、ナンバーなど様々であ
る。贊否の論がありながら作者
はなぜ題をつけるのだろうか。

それはあたかも親が生まれた子
に希望と幸せを祈って命名する
事と類似している。作者は書作
を鑑賞者へ伝えるための細い一本の絆
線を宿してゆく。正しく分身であり我
子である。だから題に苦心し悩む。題
名は鑑賞する者（初・中級者）にとっ
て道しるべとなる。制作者の募る思
いを鑑賞者へ伝えるための細い一本の絆
線ではないかと私は考えている。こ
れからも悩む幸せを感じて題名を付け
てゆきたい。

掲載の作品は書 in miyagi の作。基盤と
なる古典は甲骨文。古代の人々が天へ
の祈念を形象化したものであり、刻む
線は生命の証しであり強いメッセージー

が込められている。そ
の精神性を表現の中に
求めるため濃墨とし銳
さと強い主張を持つて
空間に響かせた。渴筆
は空を走り紙を切り開
き、深淵を生み出して
ゆく。無から有へと向
う中で筆が走り生み出
された線が、自己の証
なら心と線をより鍛錬
してゆくことが重要で
ある。前衛書は心の鏡
なのかもしない。



太田蓮紅書

240×240

2009年
書 in
miyagi
出品作
「SIN —こころ—」

平成27年度 新審査会員作品

一森琴映（漢）・仙場美枝子（か）・古谷天岳（現）・大庭幸石（前）



古谷天岳
(青森)



一森琴映
(大阪)

「和氣致祥」

穏やかな気持ちが幸せをもたらす。私の好きな言葉です。お世話になっております恩地春洋先生、小林琴水先生はじめ諸先生方のように、今後は自分の書も探求して参りたいと思います。人生山あり谷ありですが、どんな時でも穏やかな気持ちを忘れず、気張らずに取り組んでいきたいと 思います。

(琴映)

本格的に書を習い始めてから20年余り。今日までご指導いただいた師匠はじめ、諸先生方に心より感謝申し上げます。

師匠の「現代詩文書はアンバランスのバランスだ」を肝に銘じ、留まることなく今後も尚一層精進して参りたいと思います。

(天岳)

「白と黒を遊ぶ」
長里煌月の文



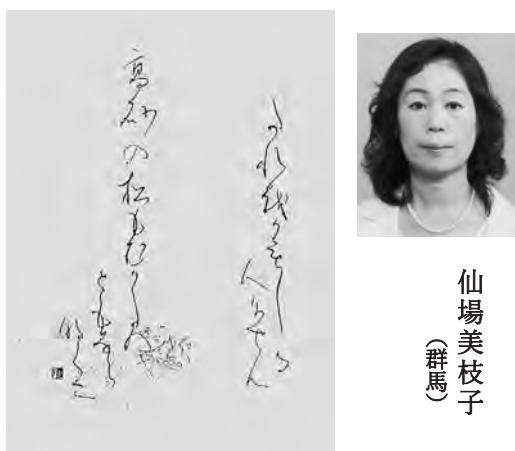
大庭幸石
(宮城)

「翔」

この度は誠にありがとうございました。嵯峨大拙先生はじめ宮城野書人会の先生方、書友の皆様に深く感謝申し上げます。

紙、墨、筆により無限に広がる表現、奥深さ。試行錯誤の日々ですが、今後も一層精進を重ねて参ります。

(幸石)



仙場美枝子
(群馬)

「誰をかも知る人にせむ高砂
の松も昔の友ならなくに」
古今和歌集

この度、書道芸術院展におきまして準大賞を受賞させていただき感激と同時に身の引き締まる思いでございます。これも故下谷東雲先生と、洋子先生の熱意溢れるご指導のお陰と感謝致しております。今後もかなの優美さを研究し、美意識を持ちなお一層書作に精進して参りたいと思います。

(美枝子)

張猛龍碑（北魏）③



西中郎將使持節／平西將軍涼州刺／史瑛之十世孫。八

〈解説〉張猛龍碑の魅力は、理知的な造形、強靭な線による点画、美しい空間構成である。字形は右上がりで、左へ長く突き出す横画、左下へ長く深く伸びる払いなどは緊張感を生み出している。また、結構（点画の組み合

わせ）のうち、偏と旁からできている文字は、一方を大きく、一方を小さく組み合わせ（偏旁強調）、小さい部分には当然のことながら余白が生まれる。全体に緊密な結構であるが、一様ではなく、洗

練された力の配分によるさまざまな変化をみせて、誇張された力強さが特徴的な造像記とはまた異なった魅力を感じさせる。

点画は方筆の充実した力強さと弾力を見せていている。

また、字間行間のあり方は、龍門の造像記と比べるとかなり広がっており、文字と空間とのバランスがよく、すっきりとした印象を与えていている。この美しい空間構成は後の唐代の九成宮醴泉銘等にも見られる。

（編集部）

※落款を必ず入れる
署名、もしくは
○○臨
(押印のみも可)

当該古典の左記掲載
部分以外も可。

漢字研究部臨書課題

II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の法帖より何文字臨書してもよい。

（よみ）



135

重之集

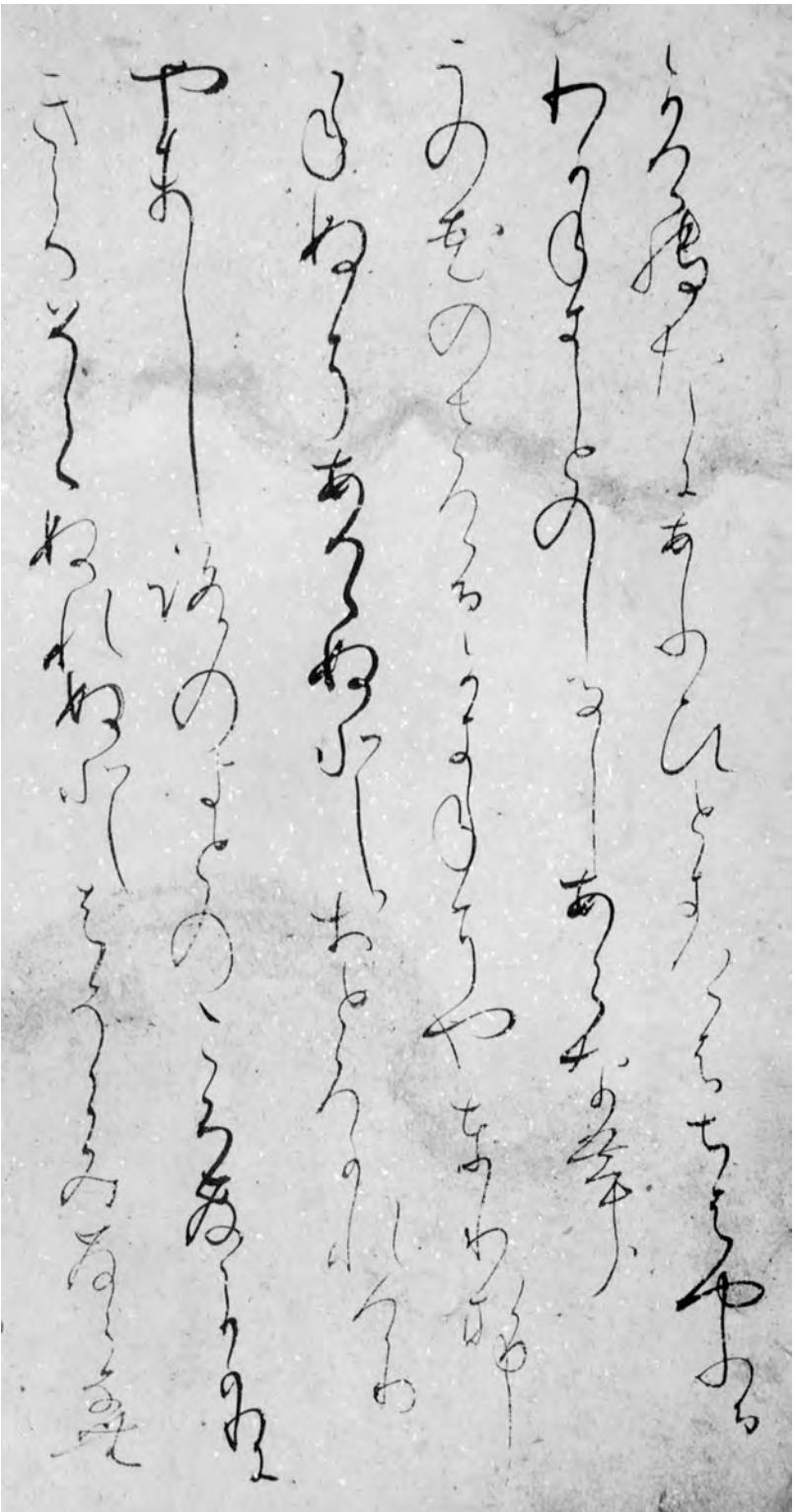
（伝 藤原行成）

③

可介神尔
かけてだにあふひときけばちはやぶる
支介者
わがねぎことのしるしらなむ

うの花のさけるかきねにやどりせし
年耳支
ねぬにあけぬとおどろかれけり
久散乎可利
きてそでぬれぬとはうらみざらなむ

※掲載上の都合により上の余白部分を省略しています。



（半紙普通判（料紙可）・縦長に使用）

かな研究部臨書課題

II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可。

左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。（全幅も可）

特別研究部臨書課題

II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみ也可）

（解説）

伝行成筆「重之集」は、平安時代の天皇、皇族、貴族に贈られた和歌の教科書、および書道の手本である調度手本のひとつとしてその姿をよく残している。王朝貴族の趣向が反映された優美な料紙に、奔放でリズミカルな筆致を駆使した書風で書写されている。

また「重之集」の手本としては伝小大君筆「御藏切本重之集」とともに11世紀に遡る書写と推定される。

これらのことから本文研究や書風ならびに料紙工芸の研究など、国文学・書道史・美術史において極めて貴重な遺品といえます。

※掲載図版は

習い方解説 (三)

小竹石雲

浮雲無歸心
(浮雲帰心無し)
(届大均)

行草で大胆な動きのある作品を表現してみた。

◎注意点

- 筆先を立てることで線に張りがでてくる。特に細線が浮薄にならないように心がけた。
- 「帰」が山場、「一行目よりもスピードをつけ躍動的に、「心」は作品をまとめあげる気持ちで、起承転結を整えて書いた。
- 字形の変化
- 浮は□縦長、雲は▽で細味、無は◇で扁平に少々傾ける、帰は□で最終画を十分長く、心は□小さくまとめる。

浮雲無歸心 よみ(浮雲帰心無し)

書体=自由



習い方解説(三)

大隅晃弘

大象無形
(老子)



書体＝楷書

創作での素材は(語句)選択は、制作過程全体から見て、かなりの重みを占めるように思います。作品形式や字配りの限定がある場合、選んだ素材によって必然的な完成形が容易に想定されるためです。創作に向かう際、何気なく素材を決めるのではなく、素材への拘りを書で如何に表現するかという、確かな見通しを含めた素材選びが大事だと考えます。

この3回は「老子」から楷書古典に頻出する文字を含めた撰文、以降3回は親しみやすい「論語」からの素材を書作します。褚遂良の雁塔聖教序を参考に書作しました。起筆・收筆での多様な用筆法、送筆での巧みな抑揚表現等、心憎い高度な技法がふんだんに組み込まれた名作です。

大辻 多希子

古池に水草の花さかりなり
(正岡子規)

みだらす

みだらすのうる

みだらす



よみ方 ふるいけ(希)に(一)みづ(徒)く(久)さのは(八)な(余)さか(可)りな(那)り(里)

創作

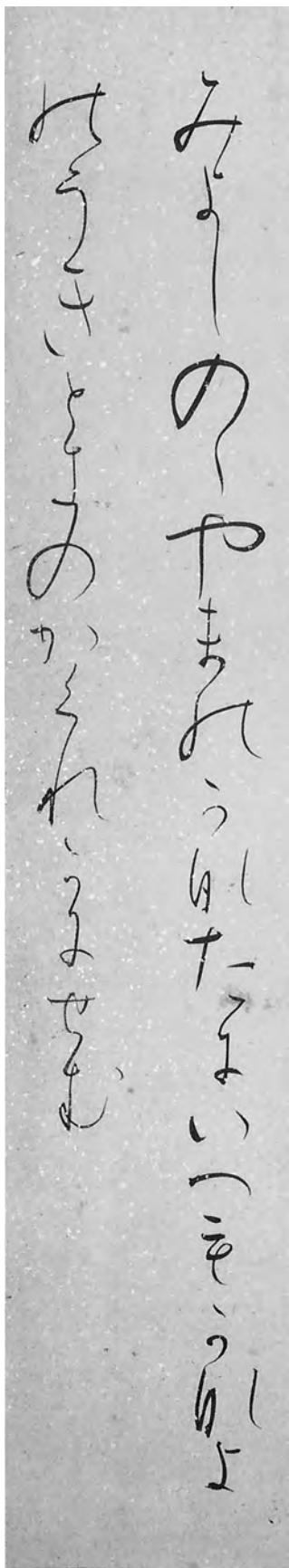
17文字の俳句を半紙に書くには、短歌を書く時より、少し太目の筆を使用します。俳句の場合は筆が細いと線が痩せてしまいます。文字数が少なく、字が大きくなるため、伸びやかな線が書けません。今回の俳句は、連綿を2文字から4文字に工夫し、漢語は、かなに置き換え、17文字にしました。紙面が貧相にならないよう、作者名も作品の一部としました。

かな作品は、連綿や、散らし書きによって表現されますが、作品に一定の決められた形はありません。しかし、美しさを表現するには、線の太細や墨量の変化は大切です。筆の抑揚に注意して書き進む事で、自然に流れも生まれると思います。

かな規定 秀級以下 【七月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種
(掲載写真縮小93%)



よみ方 みよしのゝやまの(能)か(可)な(那)たに(尔)いへも(毛)が(可)な(那)よ
の(能)うきとき(支)のかく(久)れが(可)に(尔)せむ

習い方解説 (三)

見越雪枝

「フーテンの寅さん」でお馴染
みの渥美 清の句です。俳号は、
お遍路が一列に行く虹の中
(渥美 清)

かな条幅規定【七月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

見越雪枝選書



よみ方 お遍路が(可)一列に(レ)ゆく(久)虹のな(奈)か

創作

「いくつかの句を詠んでいます。
オーソドックスな書き方にしま
した。列をのばし、字形の大小を
考え、余白を生かしました。
固有名詞など、かなに変換でき
ない漢字は、かなとの調和を考
えて書く事が必要と思います。」

*たて形式に限る

漢字 条幅 規定 初段以上 [七月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

崎井 恵風 選書

習い方解説 (三)

崎井 恵風



書体=自由

一簾雨琴書潤い、満坐清風枕簟涼
(陸游)
(一簾の珠雨琴書潤い、満坐の清風枕簟涼し)

すだれに小雨が降りかかるて琴
も書物も湿りを帶び、部屋一杯に
清風が入って来て午睡の枕元は涼
し。蒸し暑さを一掃してくれる惠
みの風を感じる陸游詩です。特に
後半に盛り上がりを意識して表現
してみました。シ(サンズイ)偏
が4字もありますので変化を考え
て制作して下さい。

*たて形式に限る

漢字 条幅 規定 秀級以下 [七月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

最首翠風選書

習い方解説 (三)

最首翠風



書体=自由

行書単体の2行書きに挑戦して
みましょう。「千」「峰」「蟬」など
縦に伸ばす画の字が重出し苦労
しました。
「懸針」「垂露」と区別して表現し
ています。針を懸けたような尖つ
た終筆、一方は露が垂れて溜った
ような終筆のこと。「麦秋」とは
麦を取り入れる季節。初夏の頃を
言います。

千峰鳥路含梅雨 五月蟬聲送麥秋
(千峰の鳥路梅雨を含み、五月の蟬聲麦秋を送る)
(李嘉祐)

牧 泰濤

○ 楽隱居、樂に苦しむ。

○ 嫁を憎かば、我が子を思え。

○ まめ自心災が、身の宝。

○ 聰学といひども、碩学に昇る。

○ 八十の手習い。

一とわざ五句を

泰濤書

ことわざは、先人たちが、美しく正しく強く生きていくために、その日々の生活の中から生み出した人生的教則です。若い方々には課題として不適かもと思いながらも。しかし誰にも老いはやって来ます。その時のためと思って書いてください。

「樂以忘憂、不知老之將至」(論語)

楽しみを以って憂いを忘れ、老いの特に至らんとするを知らず——人間何かに打ち込んでいると老いることを忘れるものだという教えです。

自分が心から楽しめる「書道」を追求して年令を忘れよう。「老いるまで生きれば、老いるまで学ぶ」「書、人ともに老いる」日々でありたいのです。結局、「書は人なり」です。

※落款を必ず入れる。
(自分の名前を入れること)

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

今月の

ホープ作品
各部総評 No. 648

漢字部 師範 浪川 秋花
漢簡を学び、軽妙な筆使いで爽快な作。字形の変化も工夫され、仲々お洒落な作品です。

◎漢字部総評 書の創作は、古典の学習を基礎とします。着実な臨書を根底にした創作を期待します。誤字にはご注意下さい。（萬城評）



漢字条幅部 師範 熊谷 桃華

歯切れよい連筆が明快で、気脈の通貫性もよくまとまりある作。大小の変化が加われば尚。

◎漢字条幅部総評 上級2行書では誤字が目立った。特に草書表現の場合は要注意。下級でも書体自由であり正確さを心したい。（大雲評）



現代詩文書部 特選 佐藤 弦佳

ベースックのしっかりした作品に心洗われる。線質・字形・余白の取り方など申し分ない秀作。

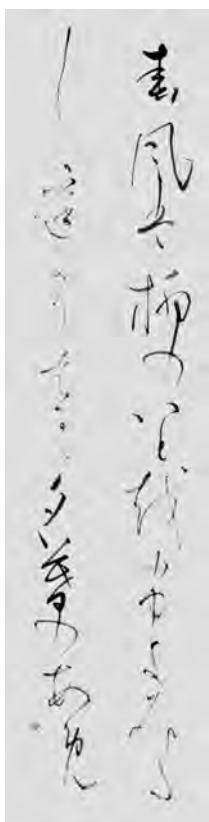
◎現代詩文書部総評 作品は落款も重要。配置や潤渴なども考えて押印も慎重に。（桟江評）



かな条幅部 準師範 堀江 幸泉

柔らかな墨色、控えめな筆致共紙によく調和し気負いのない作品が生まれた。印は一考のこと。

◎かな条幅部総評 変体かな越。漢字の暮に誤字散見。手本はそのまま写さず、研究する気持ちで利用水すること。墨汁厳禁。（明子評）



漢字条幅部 師範 熊谷 桃華

歯切れよい連筆が明快で、気脈の通貫性もよくまとまりある作。大小の変化が加われば尚。

◎漢字条幅部総評 上級2行書では誤字が目立った。特に草書表現の場合は要注意。下級でも書体自由であり正確さを心したい。（大雲評）

前衛書部 特選 三浦 朱鳳

リズミカルな線を駆使して紙面を躍動的に構成している。力があふれる作品。一層の飛躍を期待。

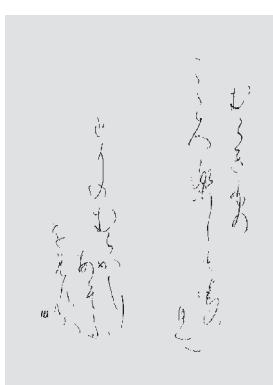
◎前衛書部総評 それぞれ試行錯誤をされ、日頃鍛錬を重ねている姿が伺え頼もしく思う。（美津江評）



かな条幅部 準師範 堀江 幸泉

いかにも楽しそうに筆を運び、難しいかなも無いのにかなとしての調和、リズムに溢れた快作です。

◎かな条幅部総評 誤字が少なく、全体によく書いていました。臨書と同じ筆は、細くなりすぎますよ。線の弾力に気付いた。（洋子評）



漢字条幅部 師範 熊谷 桃華

歯切れよい連筆が明快で、気脈の通貫性もよくまとまりある作。大小の変化が加われば尚。

◎漢字条幅部総評 上級2行書では誤字が目立った。特に草書表現の場合は要注意。下級でも書体自由であり正確さを心したい。（大雲評）

ペン字部 師範 多胡三千代
書線が充実。整齊な字形で漢字とかなの調和もよく、布置も見事です。安定感抜群の作品。

◎ペン字部総評 行書とかな連綿の作品が多かったです。かなは正しい連綿方法を学び、自然なりズムと流れを。（紅瑠評）

ペニ字部 師範 多胡三千代

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

臨書 (森地) 東平絹子「張猛龍碑」

◆整然とした中に北魏風の強い筆致を醸し出している。やや整いすぎた感あり。素朴な味わいも欲しい。

(大雲評)

◆日頃の鍛錬ぶりが窺われる。更にこの先の臨書を見たいと思うのは私だけだろうか。

(翠風評)

◆丁寧な人が真摯にとり組んだ臨書は圧倒的です。平素、主にかなを書いている者は覚醒を迫られる。

(明子評)

◆真面目に5行を書き切つて安定感がある。六朝の書は完成されない造形に魅力がある。アンバランスの美を。

(蒼玄評)

◆リルケの詩を爽やかで明るい横形式にまとめる。太細や潤渴の変化が自然で詩情を感じさせる。

(大雲評)

◆無理のない書きぶりそのものが、心に韻く境地に学ぶものがある。

(明子評)

◆一字一句読み易く、しかも芸術性豊かな作品。静かでありながら心に響く境地に学ぶものがある。

(翠風評)

◆丁寧な人が真摯にとり組んだ臨書は圧倒的です。平素、主にかなを書いている者は覚醒を迫られる。

(蒼玄評)

晋大夫張先春秋嘉其聲績漢初趙景王
張耳浮沉秦漢之間終跨列土之賞幹世祖
君其族也魏明初中西中郎將使持節平西將軍
西將軍涼州刺史瓊之十世孫八世祖軌
晋惠帝永中使持節安西將軍

東平絹子 临

174×55cm



江本興舟書

180×60cm

漢字 (大雲) 江本興舟
「五言一句」

◆大字系漢字作品にありがちな騒がしさのないのがよい。2行目「泉」はやや間伸びの感が否めない。

(翠風評)

(大雲評)

◆剛快な筆致で空間を広げて見事である。2行目3字目少し動き過ぎたか。筆意を大切に。

(蒼玄評)

(明子評)

現代詩文書 (東実) 吉田眞理
「或る四月から」

(大雲評)

(蒼玄評)

(明子評)

◆リルケの詩を爽やかで明るい横形式にまとめる。太細や潤渴の変化が自然で詩情を感じさせる。

(大雲評)

◆無理のない書きぶりそのものが、心に響く境地に学ぶものがある。

(明子評)

◆一字一句読み易く、しかも芸術性豊かな作品。静かでありながら心に響く境地に学ぶものがある。

(翠風評)

◆丁寧な人が真摯にとり組んだ臨書は圧倒的です。平素、主にかなを書いている者は覚醒を迫られる。

(蒼玄評)

◆淡々とした調子で全体をまとめバロック音楽を聴くような余韻を感じる。濃墨羊毛の線は少し重いが。

(蒼玄評)

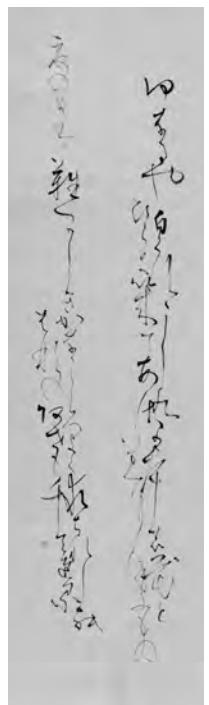
吉田眞理書

60×180cm



かな (A1) 藤村昌子

「何なるや」



藤村昌子書



170×46cm

前衛書 (書遊会) 庄司咏艸 「五月の風」



庄司咏艸書

180×60cm

◆繊細に行き届いた制作ぶりは見事です。更には大胆な動きのある字を入れこむ方向を目指されたし。
(明子評)

◆繊細で鋭い線が2首の歌を生きかして美しい。行のからみが作品のアクセントとなつていようか。
(翠風評)

創作の部(60点)	前衛書の部(20点)	漢字	かな	現代
篆刻 2点	篆刻 23点	漢字 7点	かな 5点	現代 23点
前衛候補者	漢字 19点	かな 1点	かな 1点	現代 1点
総出品点数 80点				

英峰吉瀬彩雨

臨書 (玄象) 大村直子

「張猛龍碑」

◆濃墨による渴筆がリズムを醸し、意欲的な臨書作。右上りの勢いが効果的。落款や雑な感あり。
(大雲評)

◆碑刻を臨書することで毛筆の美しさが加わり拓本に息が吹き込まれた感じがする。
(翠風評)

〔漢字〕
〔創作の部〕
〔漢字〕
〔前衛書の部〕
〔漢字〕

◆濃墨による渴筆がリズムを醸し、意欲的な臨書作。右上りの勢いが効果的。落款や雑な感あり。
(大雲評)

◆古典を見る自分の眼の平板なことを思い知らされた。渴筆の美しさに引き込まれる重厚な臨書です。
(明子評)

〔漢字〕
〔前衛書の部〕
〔漢字〕



177×60cm

(大雲評)
(翠風評)

- ◆淡墨のにじみが細線のとげとげしさを押さえて柔かく空間に広がる。印の位置はもう少し下か。
(蒼玄評)
- ◆複雑な筆の重なり、にじみ、飛沫の組み合せが何とも楽しく爽やかです。白の力に支えられた快作。
(明子評)
- ◆作者の図らいを離れて生じたかすり傷のような線に魅かれた。右上の空間が生きている。
(翠風評)
- ◆青淡墨の潤渴を生かし、飛沫の偶然性が効果を生む。渴筆の表情が今一つ弱く深味に欠ける。
(大雲評)

大村直子臨

創作の部(60点)	前衛書の部(20点)	漢字	かな	現代
篆刻 2点	篆刻 23点	漢字 7点	かな 5点	現代 23点
前衛候補者	漢字 19点	かな 1点	かな 1点	現代 1点
総出品点数 80点				

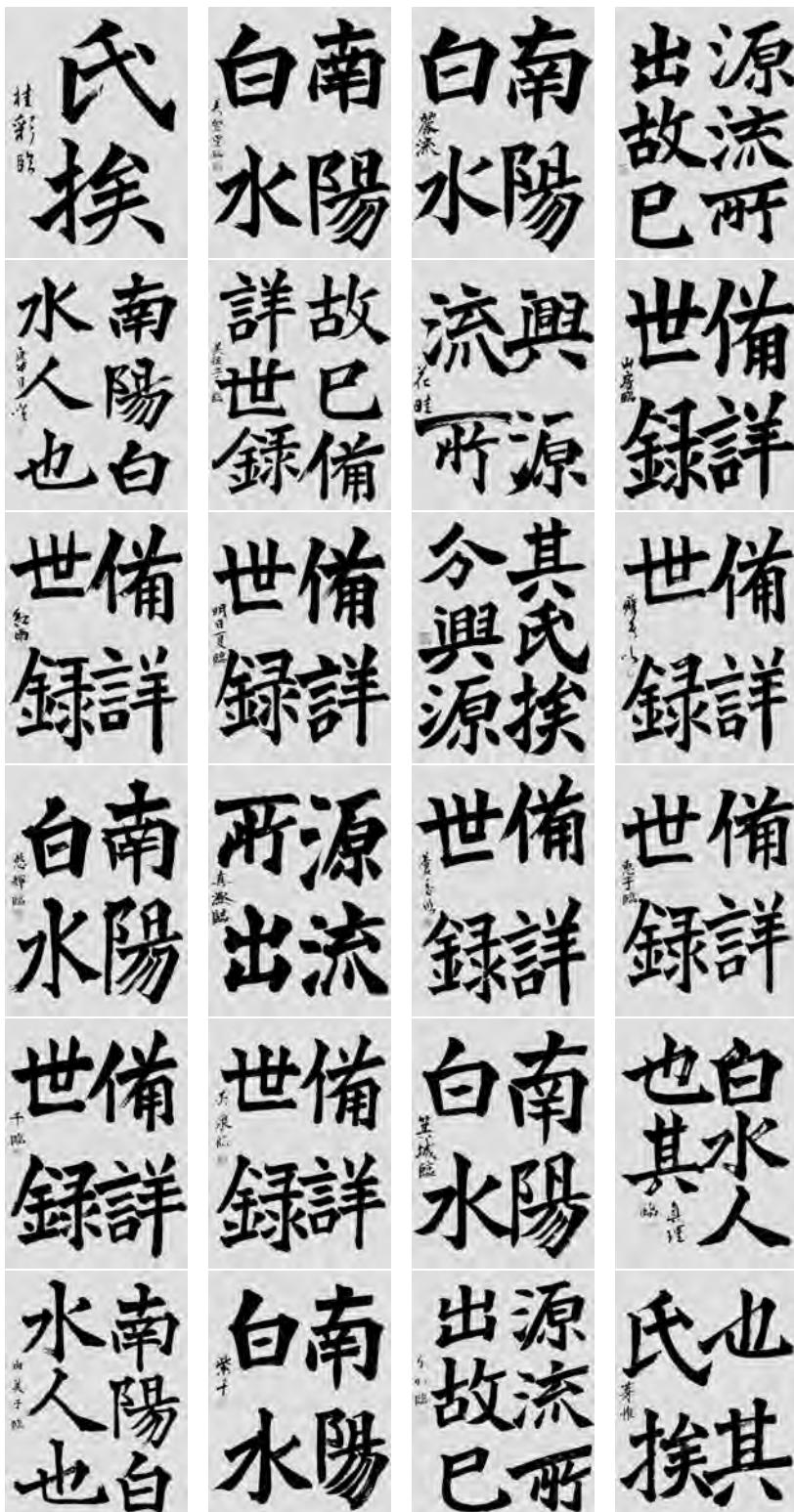
漢字研究部
(張猛龍碑)

選評 大野祥雲

今月のホープ作品



安藤楊風



由千悠紅臯桂
美鶴子輝雨月彩

紫美真明美登里
千泉澄夏子里

り箕蒼靜花麗
か城香峰畦流

芽眞恵雅山美
惟理子芳房梢

漢字研究部 特選 安藤 楊風
始筆の切れ味を見ると、張猛龍碑の特性をしっかりととつかんでいることが分かります。 続く点画も筆先を利用し、清くて深い線で運筆。気力充実で6字をガッカリとまとめる力量も素晴らしい。益々のご活躍を。

◎漢字研究部総評

課題の文字は、直線的で力強い方筆。横画はやや俯しながら右上がり。転折は鋭く角張つ

ている。左払いが伸びやか。こうした基本的な特性をよく掴み、臨書している方が多くてよかったです。一方、800名近い方々のお名前が出ていません。臨書に際し、注意してほしい点があります。常用漢字(氏、族、備)とは違う字体に出会った時や、筆路の不鮮明な文字(分、興、録)などについては、字典で調べ、自分勝手に書かないことが大切です。

かな研究部
(重之集)

選評 庄司紅邨

今月のホープ作品



龍翠昌

真葵正

洋清翠

良紅香

博玉子

紀郷子

子耀陽

泉霞舟

かな研究部		特選	宇田川春華
名	字	題	評
八Aや八誠大も秀	街Iま戸和阪く秀	京澄若澄洞土蔵千四大	毫生A東玉岩有大こ竜玉紅澄 橋春葉春書氣書葉谷阪泉大!伯松沼秋雲こ泉松瑠春
井伊伊市石天青作	上藤東川崎羽木多	近浪工岩深安西坂平陸生浅森豊巣山青石石礎加後橋須宇 藤川藤瀬坂藤澤本山駒川田田本木崎川貝藤藻本田田川春み	み
芝寿京紫甘喜藤雲子	子泉雨子連	松秋山祥清揚瑠里彩喜萩な前翠昌真葵正洋清翠良紅香 春花房園洗風美華代花江博玉子紀郷子子耀陽泉露舟華	かと
高陵佳	高宗如石澄た洞玉青白一正倉春卯竜誠明正蒼た正蘭福竜大玉筑こ澄誠 苑苑月習春か書松蓮珠心華吉汀月泉と漢華陽か華鼎山泉阪松桜だか春和	かと	躍動するリズム感を的確に捉えて、繊細な表現力
會木作	茂茂三松松増浜長沼西西永中渡高高新区佐込河木川川加小大木梅植入 木木鷲本丸田野田谷田山岡井江子山橋谷藤山野原崎藤野川西原津田谷	み 与	も見事に線質に出しました。連綿も自然に、気品高
勇介	真絢敏泰愛華永竹千奎裕弘宏よ紀裕雅翠称麻美白輝優稟龍萩彩一虹代美悠 蘭水子子石秀莖雪峰心人子枝子子泉光子美禪董童子子美惠光香美祥子枝花	かと	く、表情が明るい作品になりました。

遊千松	芳京昌華華椿蘭春硯大泉有正桂雲皓千大竜泉玉や澄正春竜高芳蒼椿大千大汐う華安玉澄こ澄大旭玉 雲葉村入	硯	大坂老川葉水
安足阿遷	渡吉吉山山安森宮堀北福東中伸豊土富土辻田田新庄佐櫻酒吝齋小小河黒久木加小荻小大宇岩今猪伊五青 部立久澤	青	青木
明秀隆	信佑翠桜雪砂直津草幸蜻キ敏笙游博萩つ洋耶智滿玲和龍恵江舞晃萩惠竹皆順雅久玉輝星楠惠よ花理紫佳玉松 溪子綾江雲子泉溪勝舟彰江子衣子泉子貞子影夢代江子葉美子芳美藻峯祥麗峯子枝扇邦栄枝月	木	木
華若正生弘	八昆松千た富硯稻澄大樹枝大蘭窟廣附英高生大面白広竹樹正玉秀上高高A誠陽竜高石N誠華正文大千う水も生 仙松華大舟生陽村葉か黒美水毛春阪原苑雲鼎泉島中峰崎大阪大扇島扇原華葉明泉井真I和陽泉陵習H和祥華月阪葉る海く大	木	木
鈴菅神新波篠宍庭柴猿佐佐志艸姫後近小高小吳熊国吉北岸菊神川河葛加岡大大榎梅生鶴岩今井犬伊市板石石池飯飯飯新新 木沢保條谷田倉田雲渡々藤藤藤沼武篠谷峰瀬村又本池田本岡瀬森沢田山方澤藤崎村上鉢藤川垣川井田田高泉井井 百幸由惠世	木	木	木
智合佳三美	智合佳三美和志煌冬芳雅翠喜淑初玄豊紫理彩欣春萩善典南星惠日佐喜淑和久美琴陽貴道良順青津澄萩光幹洋藤翠 蕙子郎	木	木
遷井実陸	高東北明も竹書竹白や五英艸墨白千高長華高前紅澄大長や幕正玉高高八北泉秀上青土さ玉耕秀大一大秀上生大澄幕竜高 外	木	木
167吉吉吉吉	吉吉吉吉横遊山山山森村村宮真松松松增前堀別福深廣平平林林野根丹西仁永長中中仲中中土富徳鶴積筑塚田田高高泉住 名田田田田田種山佐村崎口田山田川庭村重浦田川井府田澤地山田中津羽垣木田島村西田島澤井澤田田井本村中橋橋水吉 氏ゆりりりりりりりり	木	木
か理子	眞四鶴藤蘭一炎理律陸龍珠洋ヶ陽翠玉佳栄法信里佳美だ美玉美喜飛慧静光時一ヶ玉芽豊弘恵萩雅稚宏え春美幸賢龍和 か理子玉舟榮秀世子子峰風子ミ子景江子子子月幸子和華子子龍子溪堂子水子泉生作綾枝子峯裕雲子子華枝苑雲宝子	木	木